

# 井月さんの歌

詞・曲 一ノ瀬 武志  
(井月没後130年記念)

♩=84

い え を も た ず に  
ど う し て い な に  
ひ や ま と う げ の

*f* *mp*

さんじゅうねん こしに ひょうたん たけのつえ はおり はかまも  
きたのだらう どうして えちごに かえらない とまり あるいた  
さむぞらに たんぼの なかで ゆきだおれ といたに のせられ

*mf*

すりきれて きょうも トボトボ みちをゆく せい げつさん  
いえいえで はいくを かいてー さけをのむ  
はこぼれて みすずの さとにー ねむるとか

*mp* *f*

井月さんの歌

1, 2.

せい げつさん せい げつさん は どこや ら に

3. rit.

に

3. rit.

*p*



- 一 家を持たずに三十年 腰にひょうたん竹の杖  
羽織袴も擦り切れて 今日もトボトボ道を行く  
井月さん 井月さん 井月さんは何処やらに
- 二 どうして伊那に来たのだろう どうして越後に帰らない  
泊まり歩いた家々で 俳句を書いて酒を飲む  
井月さん 井月さん 井月さんは何処やらに
- 三 火山峠の寒空に 田んぼの中で行き倒れ  
戸板に乗せられ運ばれて 美篤の里に眠るとか  
井月さん 井月さん 井月さんは何処やらに

井月 (1822~1887)

江戸時代のおわりから明治のはじめにかけて、信州の伊那谷で活躍した俳諧師。その絶筆は「何処やらに鶴(たづ)の声聞く霞かな」であったという。